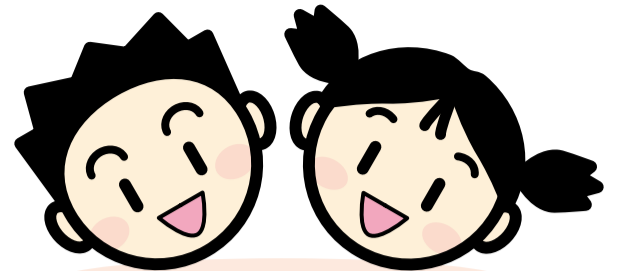


山陰教区 キッズサンガ 通信



Sanin Kyoku Kids Sangha

Vol.1

2008.7.25

発行:山陰教区教務所 〒690-0002 松江市大正町443-1 TEL(0852)21-4747 FAX(0852)27-8351 発行者:三明浄信 企画・編集:キッズサンガ専門委員会

子どもたちの声が響きあうお寺づくり

『キッズサンガ通信』発刊にあたり

山陰教区少年教化アドバイザー 佐波組浄土寺 西原 真公

昨年度より山陰教区では『全寺院「こどものつどい」一キッズサンガー』実施に向けて、山陰教区基幹運動推進委員会の中にキッズサンガ推進部を設置し、合同研修会・中四国若婦人大会・教区婦人研修会など、さまざまな研修会で、キッズサンガの願いを啓発して参りました。そして今年2月20日に第1回サポーター研修会を開催することができました。これによって山陰教区も各組にキッズサンガを推進して下さるサポーターが誕生したことになります。ここに公私共々に大変ご多用の中をお引き受け下さいましたサポーターの皆様には厚くお礼申し上げます次第であります。

さて、これから親鸞聖人750回大遠忌法要にむけて、すべての寺院でキッズサンガ開催を目指し計画・実施に取り組んでいくこととなりますが、全寺院となると少年教化に関して、すでに活発な活動をされている寺院もあれば、何年も無住となっている寺院もあり、教区内でも様々であります。その中で『すべての寺院』ということとは、とてつもない目標になるかもしれませんが、お寺があり、そこに人が暮らし子供の声があるならば、一人でも多くの子供にお寺で阿弥陀さまのご縁にふれていただくことがキッズサンガの大きな願いであり、活動目的でもあります。

また、キッズサンガとは「子供への取り組み」だけという面が強調されてしまいがちですが「子供を取り巻く大人社会への取り組み」でもあります。だからこそ門信徒と僧侶がともに取り組み、子供から大人まで集う開かれたお寺の姿がそこにあり、阿弥陀さまのお心をすべての人の居場所という願いが込められています。

その推進・相談役として各組から2～3名の方々が「少

年教化サポーター」として選出されました。

『サポーター』とは何か? サポーターとして何をすればよいのか?』まだまだ周知されていないのが現状だと充分承知しております。まずは教区アドバイザーやキッズサンガ専門委員会と連携し、組での相談役を担って頂きたいと考えております。そのためにはアドバイザーとサポーターとの繋がりが一層大切になります。いろいろな情報を共有し、意見・アイデアを出し合い、よりよい方向でキッズサンガが実施していけるよう今後サポーター協議会も開催する予定であります。

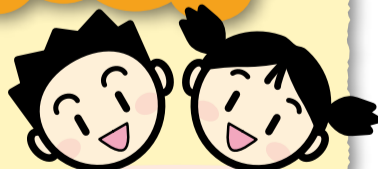
この『キッズサンガ通信』が教区アドバイザーとサポーターの皆様との連携を少しでもスムーズにし、お互いの情報交換の場になればと願っております。そしてなにより各組・各ブロック間の温度差も出来る限り少なくしていきたい想いがあります。紙面で伝わることには限りがありますが、この通信が皆様との交流の一端となれるように切に念願する次第であります。

まだまだ『キッズサンガ』にしても『サポーター』にしても不明な点、行き届かない所、困られることなど多々あるかと思いますが、何卒ご理解の上、ともに取り組んで頂きたいお願い申し上げます。

お寺がただの風景になっていませんか

山陰教区キッズサンガキャラクター ネーミング募集!

山陰教区キッズサンガのイメージキャラクターができました。このキャラクターのネーミングを募集します。



Sanin Kyoku Kids Sangha

山陰教区キッズサンガのイメージキャラクター2人(男の子・女の子)に名前をつけてください。親近感を持ってもらえるネーミングを募集します。郵送またはFAXにて、山陰教区教務所までご応募ください。

〒690-0002 松江市大正町443-1
FAX (0852) 27-8351

ご応募の際には、ご住所・お名前(ふりがな)・年齢・性別・電話番号・所属寺を明記してください。募集期間は2008(平成20)年8月1日～12月31日です。

素敵な名前
をお待ちして
います!



キッズサンガ Q & A

キッズサンガって、一体、何?!

Q1 キッズサンガというのは、何を指した活動ですか？

A1 一言で言うなら、「ご住職さん、ご門徒の皆さん、あなた方はご自分のお寺をどういうお寺にしようとされているのですか？」という問いかけから生まれる活動です。いつもご門徒さんの声がにぎやかに響くお寺の姿に理想があるのではないのでしょうか。

Q4 私の周りには、過疎化や少子化のために子どもたちがいません。とてもキッズサンガなどでできそうもありませんが？

A4 確かに、それなりの人数がいなければ賑やかさも華やかさもありません。しかし、少子化の昨今ですから、お寺の子どもも2~3人というのが現状でしょう。けれども、その2~3人の子どもと一緒に朝夕の仏参をする。それだけでも出来ればキッズサンガではないのでしょうか。

Q2 私のお寺では、すでに毎月の日曜学校やスカウト活動など、少年教化の活動を活発に行っていますが、それはキッズサンガにならないのですか？

A2 日曜学校活動やスカウト活動は、すでに立派なキッズサンガといえます。しかし、それは子どもたちだけを対象にした活動に終わっていませんか。

Q5 キッズサンガというのは、わずか一人の子どもでも、その子を育てるために、周りの人たちが育て育てられるという活動でもあるのですか？

A5 そうです。そのことを目指しているのがキッズサンガです。「仏の子どもを育てる」ということは、「仏の子どもに育てられる」ということでしょ。子どもたちの教化をご縁に、住職さんや寺族の皆さん、そしてご門徒の総代さんに仏仕や仏婦の皆さん、ありとあらゆるご門徒の方々がこの活動に関わることによって、親鸞聖人のご門徒としてのご縁に触れていただく活動がキッズサンガなのです。

Q3 少年教化だけでは、いけないのですか？

A3 教化活動の輪を広げる努力が必要ではないでしょうか。子どもたちを取り巻く人たちが、キッズサンガに関わることによって、お育てにあうことは言うまでもないことです。住職さんや坊主さん、仏婦のような一部のご門徒さんだけで運営されるに止まるのではなく、総代さんや壮年会の皆さん、お父さんやお母さん、お祖父さんやお祖母さんも一緒になって『仏の子ども』を育てる活動に参加していただくよう工夫していただきたいと思っています。

Q6 キッズサンガというのは、私のお寺を活活性化していく活動だということですが、いつまで続ければよいのでしょうか？

A6 今の段階では、御遠慮までにはその態勢を整えるということが、緊急の課題です。しかし、将来を展望すれば、一人でも子どもたちがいる限り継続していかなければならない活動であるといえます。さあ、元気を出して、まずは出来ることから始めましょう。

第2回サポーター研修会

先 般7月8日に今年度第2回キッズサンガ・サポーター研修会が行われました。前年度に比べて、41名と参加者がやや少なかったものの、キッズサンガに対する戸惑いや不安を抱えつつも何かやらなくてはという思いを持っておられた方が多くおられました。

まず、音楽礼拝による開会行事が行われました。次に研修会のテーマに『やる気 あるんですか?』と掲げ、山口教区少年教化アドバイザー・中山昭乗さんより、キッズサンガの意義や都市部と中山間部の現状、現代の子ども、さらに山口教区でのキッズサンガの取り組みについてご講義をいただきました。

午後からは4つの班に別れ、『何事も、始めてみなければわからない』というテーマで分會を、話し合いの時間を設けました。参加者各自キッズサンガに対する疑問や不安、自坊や地域の現状など、様々な意見や思いを語りあいました。その後の全体会では各班で出された意見の発表があり、全体での意見交換、質疑応答をし、閉会しました。

今回参加された参加者の意見を聞いてみますと、「キッズサンガという言葉はよく聞かすが、どんな事をするのか」「また子どもを集めて、何を、またどうすればいいのか」といった疑問や戸惑いを抱えつつも、「子どもの行事について何かしたい、またやらなくては」という思いを持っておられた方が多いようです。

研修会終了後、参加した専門委員やアドバイザーで反省会をしました。これらの疑問やお尋ねに答えるため、またより一層のご理解やご協力をいただくため、専門委員や教区アドバイザーが各組、各地域、各寺院に出かけ、サポーターの皆さんと共に考え取り組ませていただくことを確認いたしました。

いよいよ当教区においてもキッズサンガ事業が動き出すとしております。まだまだ課題や問題点がたくさんありますが、キッズサンガの取り組みにご理解を頂きますようお願いいたします。相談があれば、どんなことでもかまいません。子ども会の実現に向けて、一緒に考え、取り組んでいきたいと思っております。

.....アドバイザーの独り言

先日少年連盟の総会・研修会そして次の日サポーター研修会に参加いたしました。中山先生の講義、とてもわかりやすく、早速うちの日校で使おうと思っています。

初日の懇親会で参加された方々とお酒を飲みながらいろいろな話をさせていただきました。皆さん「熱い！」子どもの話をされる時の皆さんの顔、本気なんですよ。理念とか方法論、確かに大切なことだと思います。

この度の本山が推進しているキッズサンガ、全寺院子どものつどい、いくらでも突っ込みどころがあるんです。予算のこと、漠然とした計画性。匙を投げつけるのは簡単なことだと思いますが、「理屈じゃないよ」と皆様の話を聞いて励まされたような気がします。

私ごとであります。今年で子どもが4歳になりました。私自身何が喜びが考えてみますと、やはり子どもの笑顔を見ていることが親である私の喜びであるつくづく感じます。子どもの笑っている顔が親の幸せになるのであれば、いつもご苦労ばかりかけている阿弥陀様も、本堂で笑っている子どもたちを見て喜んでくださるに違いない。私にとって、ここが日校を続けていける意味なんです。

いま、日校をされている住職様、坊主様方も、それぞれの意味を持って活動されていることでしょう。その意味を組・教区で熱く語っていただけないでしょうか。「理屈じゃないよ」と。(K)

キッズサンガを推進・サポートするみなさんです

●山陰教区 キッズサンガ推進部会

(山陰教区基推委・組織部会委員で構成しています)

氏名	所属	氏名	所属
岡本 広樹	少年連盟理事長	西原 真公	キッズサンガ専門委員長
楠 縁人	少年教化アドバイザー	西元 一道	鳥取ブロック代表組長
泉原 省三	仏教壮年会連盟副理事長	服部やよ生	寺族婦人会連盟委員長
雲藤 一英	少年連盟理事	原田由久子	寺族婦人会連盟副委員長
上杉 信成	キッズサンガ専門委員	森山 陽治	仏教壮年会連盟副理事長
熊谷 高暢	基推委員	山崎 和子	仏教婦人会連盟委員長
杉本 健治	仏教壮年会連盟理事長	山本 真文	基推委員
竹下 正俊	総代会副会長	吉本 清	総代会副会長
西谷 正文	保育連盟理事長		

●山陰教区 キッズサンガ専門委員会

氏名	所属寺	組	備考
西原 真公	浄土寺	佐波組	アドバイザー
石橋 直人	光西寺	邑智西組	アドバイザー
楠 縁人	善徳寺	飯石北組	アドバイザー
村上 元	妙寿寺	鹿足組	アドバイザー
吉田 唯子	真光寺	松江組	
北島 清秀	乘光寺	神門組	
金盛麻衣子	専勝寺	三瓶組	
波北 顕	光善寺	温泉津組	
岡本 広樹	長玄寺	市山組	
市野 不尽	覚永寺	浜田組	
上杉 信成	香宝寺	伯耆組	

●山陰教区 キッズサンガ 組サポーター

氏名	所属寺	組	役職	氏名	所属寺	組	役職
隼田 真生	真行寺	松江組	組相談員	福井 義信	福常坊	川本組	副組長
籾 順子	順光寺	松江組		松林 茂	福泉寺	川本組	少年担当
藤森 観海	宗玄寺	出雲組	組相談員	吉川 恭	永照寺	千須賀組	組相談員
西谷 啓翠	通伝寺	出雲組	少年担当	口羽 義秀	西蓮寺	千須賀組	
雲藤 一英	西念寺	神門組	副組長	岡本 広樹	長玄寺	市山組	組長
三浦 寛信	長泉寺	神門組	少年担当	岡本 章夫	西教寺	市山組	
源 彰弘	西蔵寺	飯石南組	副組長	瑞光 倫浩	真清寺	邑智東組	組相談員
吉川 光城	真向寺	飯石南組		寺澤 郁也	円浄坊	邑智東組	
藤井 哲真	福泉寺	飯石北組	副組長	日高 秀憲	願入寺	邑智西組	組相談員
禿 文雄	専正寺	飯石北組	少年担当	柳井 賢勝	願成寺	邑智西組	
大石 寛隆	大恩寺	石東組	組長	山本 真文	円勝寺	江津組	組長
小笠原芳秀	法専寺	石東組	僧侶研修担当	熊谷 利教	西方寺	江津組	副組長
大草 顕信	常見寺	大田組	組相談員	市野 不尽	覚永寺	浜田組	副組長
熊野 順子	浄教寺	大田組	少年連盟担当	富金原真慈	蓮敬寺	浜田組	青少年部会
大草 博子	照善寺	三瓶組	組相談員	三瀧 香順	慈照坊	福屋組	副組長
金盛亜希子	専勝寺	三瓶組		能美 顕之	千田浄光寺	福屋組	少年担当
寺本 介芳	安養寺	大森組	組長	早川 寛之	浄蓮寺	三隅組	副組長
高津 眞悟	浄福寺	大森組	副組長	中川 正昭	浄本寺	三隅組	少年担当
毛利 諱善	大雄寺	仁摩組	組長	寺戸 聖士	萬徳寺	益田組	組相談員
小笠原弘之	玉泉寺	仁摩組	少年教化部	齋藤 友法	正円寺	益田組	組織部
小笠原恵功	明円寺	大家組	組相談員	富岡 芳史	常光寺	鹿足組	副組長
荒本 由未	西臨寺	大家組	少年担当	岡崎 正興	桂正寺	鹿足組	実行委員
波北 顕	光善寺	温泉津組	副組長	山名 法道	西法寺	因幡組	組長
特留 宣裕	法久寺	温泉津組		片上 義弘	浄宗寺	因幡組	
佐和 信英	円立寺	佐波組	副組長	上杉 信成	香宝寺	伯耆組	組相談員
西原 慎治	明光寺	佐波組		兜坂 彰英	妙寂寺	伯耆組	